

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

目 的 東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施及び当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等
 - ア) 東門の修復工事に対する情報通信技術を活用した技術的支援の実施
アンコール・シエムレアプ地域保存整備機構 (APSARA) が実施する修復工事の内容をメッセージサービス (SNS) 等によりリアルタイムで把握し、工事の進捗に応じて修復や補強の方法を協議するためのオンライン会議を開催 (2020 (令和2) 年4月21日、5月19日、7月17日、9月1日、10月6、14日、11月27日)
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び事業報告
アンコール遺跡国際調整委員会 (ICC-Angkor) への定期的な事業報告の提出 (6月、11月)、第34回ICC技術会合への事業プレゼンテーションビデオの提出及び同会合へのオンライン参加 (2021 (令和3) 年1月26日~27日)
 - ウ) 東南アジア考古学会2020年度大会における「アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備」の報告 (12月12日)
 - エ) 研究所エントランスロビーパネル展示「カンボジア・アンコール・タネイ寺院遺跡東門の修復」(7月4日~2021 (令和3) 年6月2日)
 2. ネパールの被災文化遺産保護に関する支援
カトマンズ・ハヌマンドカ王宮シヴァ寺の復旧工事に向けたJICA長期派遣専門家等への資料提供及び技術的助言のための協議を実施 (7月29日、10月23日、12月16日、25日)
 3. ペルシア湾岸諸国における協力(相手国調査)
ペルシア湾岸地域の文化遺産保護協力の需要を調査するため、サウジアラビア王国、バハレーン王国、オマーン国、アラブ首長国連合及び当該地域の水中文化遺産保護の現状を対象とした関係者へのオンラインインタビュー等を実施(11月18日、26日、12月10日、1月18日)
 4. オンライン研修及び研究会
 - ア) 研究会(ウェビナー)「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」の開催(11月21日)
 - イ) オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」の開催(11月12日、25日)
- 論 文**・森朋子、浅田なつみ、SHAKYA Lata: 「カトマンズ盆地内歴史的集落保全における法的枠組み—2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その13—」日本建築学会大会学術講演梗概集 pp.955-956 20.9
- 発 表**・SEA Sophearun, KEOV Diamand (APSARA, video presentation prepared by TNRICP), "Restoration on East Gate of Ta Nei Temple" The 34th Technical Session of ICC-Angkor 21.1.26
・友田正彦、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ: 「アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備」 東南アジア考古学会2020年度大会 20.12.12
- 刊行物**・"Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2020" APSARA/TNRICP, 21.3
・『東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理 研究会記録/Conservation of Wooden Architectural Heritage in Southeast Asia Proceedings』東京文化財研究所 21.3

研究組織 ○金井健、友田正彦、安倍雅史、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ、岡崎未来(以上、文化遺産国際協力センター)、山田大樹(以上、客員研究員)、腰原幹雄、大石岳史、桑野玲子、大坪正英(以上、東京大学生産技術研究所)

世界遺産研究協議会 (④コ01の一部として実施)

「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するための研究協議会については、我が国の文化財保護における「整備」を対外的にどのように説明するかというテーマに関して開催する予定であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮して開催せず、次年度と併せて2カ年の予定とし、今年度は必要となる概念や論点の整理について専門家に寄稿を依頼して、報告書として刊行した。

研究会「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」(③コ02の一部として実施)

平成28年度から東南アジアの木造建築をテーマに連続して開催してきた研究会の最終回として、東南アジアにおいて木造建築遺産の保存修理に用いられている手法の特徴やその背景にある考え方などを明らかにすることを目的に開催した。当初は2020(令和2)年3月の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う渡航制限により延期を余儀なくされ、11月にオンラインでの開催となった。研究会には当地で文化遺産保護に携わる実務家の参加を得て、実際に行われている木造建築保存の様々な方法や技術に関する講演を行ってもらい、パネルディスカッションでは東南アジア各国だけでなく日本の木造建築保存の考え方や双方での方法論の違いを比較分析する観点からの議論を行った。

日 時：2020(令和2)年11月21日(土) 14:00～17:10

会 場：オンライン(Zoom) / 東京文化財研究所 地下会議室

使用言語：日本語・英語(逐次通訳 山内奈美子、金出ミチル)

参加者：56名(最大同時視聴者数46名)

プログラム：趣旨説明 金井健(東京文化財研究所)

講 演 ポントーン・ヒエンケオ(タイ王国文化省芸術局建造物課)

「タイにおける木造建築遺産の保存修理」

セントン・ルーヤン(ルアンパバーン世界遺産事務所)

「ラオスにおける木造建築遺産の保存修理」

モンティラー・ウナークン(ユネスコバンコク事務所)

「国際的視点から見た東南アジア木造建築遺産保存修理の現状と課題」

パネルディスカッション

モデレーター 友田正彦(東京文化財研究所)

パネラー 中内康雄(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)、ポントーン・ヒエンケオ、セントン・ルーヤン、モンティラー・ウナークン

刊行物：『東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理 研究会記録 / Conservation of Wooden Architectural Heritage in Southeast Asia Proceedings』東京文化財研究所 213

総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和2年度は下記のスケジュールで開催した。